

虐待通報について話そう

—入院中の精神障害者の虐待通報制度の施行で見てきたこと

○小池 純子、三宅 美智、川口 敬之、名雪 和美、岩垂 由真、松長 麻美

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

【背景】精神科病院における精神障害者への虐待防止は、人権保障と精神科医療の質の観点で極めて重要な課題です。これまで精神科病院に対する監査体制や職員研修の整備が進められ、虐待に遭遇しやすい看護師を中心に虐待の要因や対応に関する研究が蓄積されてきました。こうした流れの中で、2022年の精神保健福祉法の一部改正により、入院中の精神障害者に対する虐待防止の措置規定が定められ、虐待に関わる通報制度（以下、「虐待通報」）が義務化されることになりました。この制度は、精神科病院と自治体が協働して虐待を起こさない組織風土の形成や、虐待の未然防止を一層推進するとともに、仮に虐待が発生した場合であっても、早期発見や再発防止を図ることを期待しています。それを受けて、厚生労働科学研究において「入院中の精神障害者の虐待防止に関する研究」が実施されています。この研究の1つとして、法施行後の自治体と精神科病院における現状、運用上の課題、今後に向けて解決を必要とすることなどを明らかにするために、自治体職員、精神科病院の管理者とスタッフ、精神障害当事者を対象にインタビュー調査を行っています。自治体と精神科病院は、虐待通報の運用に関しそれぞれの立場での工夫を積み重ねていますが、立場の違いによって相互理解が十分ではない場面も見られます。また、同一の精神科病院の中でも、管理職が重視することと現場スタッフが感じている課題には差異があることが示唆されています。精神障害者に対する虐待防止に向けては、目標を共有し、それぞれの立場を理解しながらそれぞれができることを実践することによって、実効性のある協働につながる可能性があります。【目的】このワークショップでは、同研究で得られた知見を共有するとともに、虐待通報制度および精神科入院医療における課題について、参加者とともに検討することを目的としています。【対象者】看護師等医療従事者

【方法・内容】 1. 趣旨説明・研究結果の紹介ワークショップ前半では、調査結果から明らかになった、虐待通報制度の運用上の工夫や困難、今後に向けた課題について共有します（約30分）。2. グループワークワークショップ後半は、調査結果を手がかりとして、知識や経験と照らし合わせながら、現状の課題や対応の難しさを言語化し、意見交換をしていただきます（約40分）。3. アンケートワークショップの最後にアンケートを行い、今後の解決すべき課題とその取り組みに生かしていきます。アンケートの結果は、本研究に使用させていただくことがあります。【期待される効果】虐待防止に関わる取り組みでは、関係者それぞれの立場性によって経験や感じ方が異なります。本ワークショップを通じて、参加者がそれぞれの立場の視点を理解することで、虐待通報制度を手続きとしてではなく、組織文化や日常実践と結びつけて捉える視点を獲得することが期待されます。さらに、現場で直面する課題を共有することによって、精神科医療における虐待の未然防止および再発防止に向けた実践的示唆を得ることを目指します。